

JICA 横浜 海外移住資料館

館報

平成 17～19 年度



はじめに

JICA横浜 海外移住資料館は、平成14年10月の開館以来「われら新世界に参加す」を基本テーマとして、新世界の社会・文明造りに貢献した日本人の海外移住者の歴史と生活・体験を展示し、日本人の海外移住及び世界の日系社会の歴史を未来に継承するための諸活動を行ってきました。

また、移住者及び日系人のために、自らのルーツである日本と移住の歴史に関する知識と理解を深める場を提供することを通じ、移住者・日系人・日本人の相互理解と交流にも力を入れてまいりました。

このたび、このような設立の趣旨に沿った諸活動を積極的に展開してきた実績をまとめた「JICA横浜 海外移住資料館 館報」（平成17年度～平成19年度）を発刊することになりました。当資料館がこれまでどのような取り組みをしてきたか諸行事や諸成果をお伝えして、関係者の皆様に当資料館の活動をご理解いただければ嬉しく思います。

当資料館は今後とも我国の近代史の一部である海外移住の歴史に関する当資料館所蔵の標本・資料の整理・保存、新たな資料類の収集、公開並びに多文化共生について学習する教育の場としての教育プログラムの充実などをより統合的に進めていくこととしております。

今後とも、関連機関や研究者の皆様の温かいご指導、ご鞭撻、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2009年2月

独立行政法人 国際協力機構
横浜国際センター 所長
海外移住資料館 館長
高井正夫

目 次

1. 展示イベント等	1
2. 情報システム	12
3. 資料の受入	18
4. 教育普及活動	19
5. 広報活動	25
6. 運営委員会及び学術委員会	27
7. 各種実績	30

1. 展示イベント等

平成 17 年度

企画展示「広島はどうして海外移住者が多いの」

期間：2005 年 11 月 1 日（火）から 12 月 25 日（日）

場所：JICA 横浜 海外移住資料館 企画展示室

主催：JICA 横浜 海外移住資料館

企画協力：小林正典

概要：なぜ広島県が日本の中で海外移住者が一番多いのかをテーマに、移住の背景や、海外にのこる日本人のアイデンティティを紹介した。展示資料は小林氏が個人収集した資料のほか、広島市市民局所蔵物品資料や外交史料館所蔵文書資料を複製ないし借用して展示を構成し、ハワイ移民の農作業具、パラグアイ移民が建設した城の写真、牛車の模型などのほか、パネルや写真類多数を展示。



特別展示「ヨコハマ&ハワイ歴史展示～アロハシャツと日本人移民の歴史～」

期間：2005 年 7 月 26 日（火）から 8 月 14 日（日）

場所：JICA 横浜 海外移住資料館 企画展示室

主催：JICA 横浜 海外移住資料館、財団法人 NHK サービスセンター

概要：第一回ハワイ官約移民のコレクション（大槻統氏寄託）を元に、当時の労働約定書や写真など、貴重な資料でハワイ移民の歴史をテーマとした展示。同時に、移住した日本人たちによるハワイの文化形成への足跡のひとつであるアロハシャツについて、小林享一氏のビンテージ・アロハシャツのコレクションを紹介。



特別展示「『ハルとナツ 届かなかった手紙』展」

期間：2005 年 11 月 11 日（金）から 12 月 11 日（日）

場所：JICA 横浜 2 階ロビー


主催：JICA 横浜 海外移住資料館、財団法人 NHK サービスセンター

概要：ブラジルと日本に引き裂かれた姉妹を題材に、ブラジル移民について大きく取り上げたドラマ『ハルとナツ』。BS ハイビジョンでの再放送前に、撮影で使用された衣装や小道具、出演者からのメッセージパネルなどのほか、当館のブラジル移住にまつわる資料も合わせて展示。



特別展示「平生鈞三郎（ひらおはちさぶろう）展」

期間：2006年3月28日（火）から4月16日（日）
場所：JICA 横浜 海外移住資料館 企画展示室
主催：JICA 横浜 海外移住資料館
協力：財団法人日伯協会、学校法人甲南学園、国立海外日系人会館推進委員会
概要：甲南学園や甲南病院を創設するなど教育、医療、福祉の分野や生協の誕生にも足跡を残し、第2次大戦末期には文部大臣も務めた平生鈞三郎のブラジル移住とのかかわりをテーマとした展示。昭和9年（1934年）ブラジルで制定された「2分制限法」の時代、海外移住組合連合会の2代目会長だった鈞三郎は、実業家ならではの発想でこのピンチを切り抜けようと奔走した。日本とブラジル、交流100年の歴史の中での鈞三郎をとらえるため、ブラジル移民の歴史からはじまり、当時の時代背景や、両国を取り巻く世界情勢等紹介。



平生鈞三郎展

2006年3月28日(火)～4月16日(日)

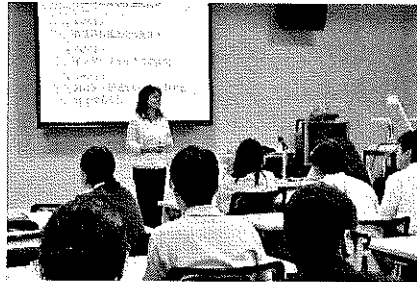
会場：JICA横浜 海外移住資料館 企画展示室
主催：JICA横浜 海外移住資料館
協力：財団法人日伯協会、学校法人甲南学園、国立海外日系人会館推進委員会

イベント「アンケートに答えて海外移住資料館で花火を見よう！」

アンケート実施期間：2005年6月22日（水）から7月18日（月）
概要：館内でのアンケートにご協力いただいた方を対象に、JICA 横浜での神奈川新聞花火大会観覧（8月1日開催）へ抽選で招待（2名1組60名）。

セミナー「海外移住資料館を活用した授業づくり～かるたと紙芝居を教材にして～」

期日：2005年8月25日（木）
場所：JICA 横浜1階 会議室
主催：JICA 横浜 海外移住資料館
後援：横浜市教育委員会
概要：海外移住資料館の「移民カルタ」と「紙芝居」を活用した、異なる文化を受容・尊重し、共生にむけて社会参加ができる子どもたちの育成をテーマとしたセミナー。講師は中山京子氏（京都ノートルダム女子大学・元東京学芸大学附属世田谷小学校教諭）。教育関係者を対象に実施。



イベント「子どもアドベンチャー2005 海外移住資料館のかるたと紙芝居で遊ぼう!!」

期間：2005年10月11日（火）から10月12日（水）
場所：JICA 横浜 海外移住資料館
主催：横浜市、横浜市教育委員会
概要：横浜市が小中学生を対象に開催している「子どもアドベンチャー」へ参加。「移住って何だろう?」「日系人ってどんな人?」「日本人の海外移住が始まったのは100年以上も前。彼らはどんな気持ちで海を渡り、どんな生活をしたのだろうか?」などをテーマに、かるたと紙芝居で遊びながら学ぶプログラムを実施。

写真展「写真家屋須弘平展～写真と遺品が語るグアテマラ移住と望郷～」

期間：2005年10月4日（火）から11月6日（日）

場所：JICA 横浜 2階ロビー

企画：岩手県藤沢町、ガレリアアプロ合資会社

後援：JICA 横浜、駐日グアテマラ共和国大使館

概要：屋須弘平は、幕末から明治へ移り変わる時代の流れのなか、故郷の岩手県藤沢町を離れ、1874年横浜で金星観測を行ったメキシコ科学調査隊との出会いがきっかけで、メキシコへ渡り、そして終の棲家となった中米の国グアテマラで写真館を開いた。130年という時間の中でラテンアメリカの土塊となって忘れ去られた移住者の足跡を21世紀に繋げるというテーマで、屋須弘平の写真作品とその遺品を紹介。

講演会「グアテマラに生きた写真家 屋須弘平」

期日：2005年10月15日（土）

場所：JICA 横浜 4階 セミナールーム

講師：飯沢耕太郎（写真評論家）

概要：写真展にあわせて、同展示のテーマについて講演会を実施。1878年グアテマラに渡った屋須弘平は、1885年にアンティグア市に移り住み写真館「Fotografia Japonesa, Juan Jose Yas」を開き、1890年にグアテマラに永住を決意。19世紀末及び20世紀初頭のアンティグア市の模様を数多く写真に残し、その写真の一部はメソアメリカ地域調査研究所（CIRMA）に保存されている。アンティグア市住民の記憶にも「YAS」として残っている屋須弘平の生涯をたどる。

講演会「日本人の海外移住・異文化交流の今昔」

期日：2005年11月26日（土）

場所：JICA 横浜 1階 会議室

講師：小林正典氏（日系移民研究者）

概要：1885年（明治18）のハワイ官約移民から本格化する日本の出移民史100年を、ハワイ、北米、ペルー、ブラジルそしてパラグアイ等の地域特性と時代背景を示しながら紹介。また過去の出移民の歴史から、現在の日系人の出稼ぎという入移民に通じる課題を提示するとともに、海外の現地で基盤を築き活躍する日系人を紹介。

特別展示「平生飢三郎（ひらおはちさぶろう）展」

期間：2006年3月28日（火）から4月16日（日）※平成17年度参照

特別展示「草分け～カナダへ移住した日本人の肖像画展～」

期間：2006年5月12日（金）から5月30日（火）

場所：JICA 横浜 海外移住資料館 企画展示室

主催：JICA 横浜 海外移住資料館

後援：カナダ大使館

概要：ブルック・アンダーソンが描く、1800年代後半から1900年代初頭にかけて、北米西部、主にカナダに移住した日本人の姿。移住者の目に映った広々とした空、深い森、広大な平原といった風景、そしてプリティッシュ・コロンビア州古文書館所蔵の古文書や写真からインスピレーションを受けて描かれた作品を展示。



特別展示「パラグアイ日本人移住 70 周年 パラグアイ展」

期間：2006年8月15日（火）から10月15日（日）

場所：JICA 横浜 海外移住資料館 企画展示室

主催：JICA 横浜

後援：パラグアイ共和国大使館

概要：南米大陸のほぼ中央に位置するパラグアイ共和国。日本から見るとちょうど地球の反対側に位置するこの国は、実は南米きっての親日国。それは1936年にはじめて日本人が移住したことに始まる。日本人移住者たちが原生林を開拓し、農業など多くの分野で国の発展に寄与してきたことが、パラグアイで「日本」が広く知られ、また信頼されることにつながっていった。70周年を迎えるパラグアイの日系社会の歴史をふり振り返りながら、あわせてパラグアイの豊かな自然や多彩な文化、そして同国におけるJICAの国際協力事業を紹介。



特別展示「FEU NOS PERES ニューカレドニアの日系人」

期間：2007年2月27日（火）から4月1日（日）

場所：JICA 横浜 海外移住資料館 企画展示室

主催：「ニューカレドニアの日系人」展企画実行委員会

助成：フランス政府外務省太平洋基金、カナック文化局（A. D. C. K.）

協力：JICA 横浜 海外移住資料館、ニューカレドニア日本親善協会、チバウ文化センター、RF0 ニューカレドニア、横浜日仏学院、株式会社堀内カラー

後援：外務省、フランス大使館文化部



概要：フランス語のタイトル「FEU NOS PERES（フー・ノ・ペール）」は直訳すると、「亡き私達の父親」という意味。この展覧会は、現地に残された子供たちの、日本人の父親へのオマージュ。2003年から現地の日系二世たちの聞き取りを中心に、ニューカレドニアの日本人移住の歴史を調査している写真作家の津田睦美氏による日系二世の肖像・映像作品とともに、当時の手紙や古い写真、モノ（遺品）などを中心に展示。

講演会「カナダを選んだ日本人移民～1900年初頭を中心に～」

期日：2006年5月21日（日）

場所：JICA 横浜 1階 会議室

講師：飯野正子（津田塾大学学長）

概要：1900年代初頭に北米に向かった日本人移民にとって、カナダとアメリカ合衆国の違いは大きな意味を持っていなかったと思われる。展示「草分け」に描かれたような日本人移民は、なぜカナダを定住先と決めたのだろうか。彼らの描いた夢はどのようなものだったろうか。そしてカナダ社会は彼らをどのように迎えたのか。日本人移民のカナダへの定着の過程を追って、移民することと定着することの意味を、そして彼らのアイデンティティを考察する。

イベント「アンケートに答えて海外移住資料館で花火を見よう！」

アンケート実施期間：2006年6月1日（木）から7月2日（日）

概要：館内でのアンケートにご協力いただいた方を対象に、JICA 横浜での「横浜開港記念みなと祭 第51回国際花火大会」観覧（7月16日開催）へ抽選で招待（2名1組100名）。

イベント「ミュージアム・クイズ・ラリーYOKOHAMA 2006」

期間：2006年7月17日（月）から8月31日（木）

場所：JICA 横浜 海外移住資料館

概要：海外移住資料館を含む地域の博物館が連携して夏休みに行なう「ミュージアム・クイズ・ラリーYOKOHAMA」へ参加。神奈川県立歴史博物館の常設展から出題されたクイズを、各館を回って解いていくイベント。小・中学生が対象。

イベント「子どもアドベンチャー2006 海外移住の歴史をかるたで学ぼう！写真をはがきにしてプレゼント！」

期間：2006年8月24日（木）から8月25日（金）

場所：JICA 横浜 海外移住資料館

主催：横浜市、横浜市教育委員会

概要：横浜市が小中学生を対象に開催している「子どもアドベンチャー」へ参加。「移住って何だろう？」「日系人ってどんな人？」「日本人の海外移住が始まったのは100年以上も前。彼らはどんな気持ちで海を渡り、どんな生活をしたのだろうか？」などをテーマに、かるたと紙芝居で遊びながら学ぶプログラムを実施。その場で撮影した写真を絵葉書にして賞品とした。

講演会・コンサート「パラグアイとアルパに親しむつどい」

期日：2006年10月7日（土）

場所：JICA 横浜 体育館

概要：特別展示「パラグアイ日本人移住 70 周年 パラグアイ展」にあわせて開催。パラグアイ共和国田岡功駐日大使とアルパ奏者ルシア塩満氏による講演「移住地の思い出」「大使の見たパラグアイ移住 70 周年記念祭典」及び、ルシア塩満氏によるアルパ演奏。



イベント「第4回世界のウチナンチュ大会」JICA ブースにて展示

期間：2006年10月12日（木）から10月15日（日）

概要：第4回世界のウチナンチュ大会 JICA ブースにて、オキナワポリビア歴史資料館 web サイト一般公開イベントを実施（10月12日）。期間中、同ブースにてコロニアオキナワ関連展示を開催。



ピアノリサイタル「矢崎愛～ピアノと暮らしたブラジル～」

期日：2006年11月11日（土）

場所：JICA 横浜1階 ロビー

出演：デュオ・ジェレイア・ジェラウ「DUO GELEIA GERAL」

概要：日本人ピアニストとしてブラジルで活躍中の矢崎愛氏によるピアノリサイタル。ブラジル音楽のエッセンスが散りばめられた曲の数々を、サクソとのデュオで演奏。

講演会「ニューカレドニアの日系人展」の意義

期日：2007年2月27日（火）

場所：JICA 横浜4階 セミナールーム

講師：津田睦美（写真作家、成安造形大学助教授）

概要：特別展示「ニューカレドニアの日系人展」にあわせて開催。本展示の資料収集および企画を担当した、写真作家で成安造形大学助教授の津田睦美氏が、展示の意義とそのきっかけや内容について講演を実施。

講演会「ニューカレドニア社会と日本人」

期日：2007年2月27日（火）

場所：JICA 横浜4階 セミナールーム

講師：エマニュエル・カザレル（チバウ文化センター館長）

概要：特別展示「ニューカレドニアの日系人展」にあわせて開催。チバウ文化センター館長エマニュエル・カザレル氏による、ニューカレドニアにおける日本との関わりや日系人の歴史に関する講演を実施

講演会「FEU NOS PERES とニューカレドニアの日系二世」

期日：2007年3月18日（日）

場所：JICA 横浜 4階 セミナールーム

講師：津田睦美（写真作家，成安造形大学助教授）

概要：特別展示「ニューカレドニアの日系人展」にあわせて開催。展示写真に写っている日系二世のエピソードを交え、ニューカレドニアにおける日系人の実態や生活を津田睦美氏が報告。

講演会「カナック社会における日系人」

期日：2007年3月18日（日）

場所：JICA 横浜 4階 セミナールーム

講師：ダニー・ダルメラック（作家）

概要：特別展示「ニューカレドニアの日系人展」にあわせて開催。作家のダニー・ダルメラック氏によるニューカレドニアのカナック社会と日系人の関係に関する講演を実施。

講演会「ニューカレドニアと日本」

期日：2007年3月18日（日）

場所：JICA 横浜 4階 セミナールーム

講師：マリー＝ジョゼ・ミッシェル（ニューカレドニア日本名誉領事）

概要：特別展示「ニューカレドニアの日系人展」にあわせて開催。ニューカレドニアと日本というあまり知られていない両国の関係を、ニューカレドニア日本名誉領事で日系三世でもあるマリー＝ジョゼ・ミッシェル氏が講演。

イベント「rimacona コンサート」

期日：2007年3月18日（日）

場所：JICA 横浜 4階 セミナールーム

出演：rimacona

概要：特別展示「ニューカレドニアの日系人展」にあわせて開催。京都を中心に活動する原摩利彦(Key.)と柳本奈都子(Vo.)のユニットによるコンサートを実施。

平成 19 年度

特別展示「FEU NOS PERES ニューカレドニアの日系人」

期間：2007年2月27日(火)から4月1日(日) ※平成18年度参照

特別展示「青い目の人形展」

期間：2007年10月2日(火)から10月14日(日)

場所：JICA 横浜 海外移住資料館 企画展示室

主催：神奈川・横浜ふるさと講座委員会

協力：JICA 横浜 海外移住資料館

概要：1924年、不況のさなかに制定された排日移民法は、多くの日本人移住者を苦しめた。このことに心を痛めたアメリカ人宣教師が日本の子どもたちのために贈ったものが「青い目の人形」だった。人形は各地の尋常小学校に贈られ、日本からもお礼に日本人形が贈られた。人形を通じた交流は、その後の日米関係を大いに緩和させただけでなく、アメリカで祖国を思いながら生活していた日本人移住者の心をも癒すこととなる。展示では、現存する青い目の人形や子どもたちが贈ったお礼状、当時の写真を紹介。

特別展示「コロラド日系人の100年展 ロッキー山脈のもとで」

期間：2007年10月16日(火)から12月16日(日)

場所：JICA 横浜 海外移住資料館 企画展示室

主催：コロラド日系人会

協力：JICA 横浜 海外移住資料館

概要：アメリカ合衆国西部のコロラド州には、明治時代から日本人が移り住むようになり、現在では14,000人の日系人が暮らしていると言われる。日本人移住者たちの生活や仕事、戦時下で経験した強制収容所での暮らし、2世たちの活躍、そして日本とのつながりなど、コロラド日系人の100年の歴史を写真パネルで紹介。



特別展示「日伯交流年 ブラジル日本移民百周年記念写真展～新世界に渡った日本人～」

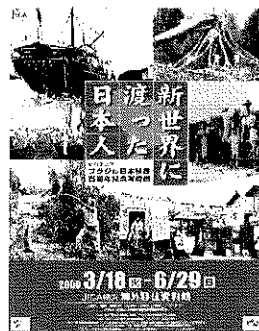
期間：2008年3月18日(火)から6月29日(日)

場所：JICA 横浜 海外移住資料館 企画展示室

共催：独立行政法人国際協力機構、ブラジル日本移民百周年記念協会

企画・構成：JICA 横浜 海外移住資料館、ブラジル日本移民史料館

協力：東山農場珈琲資料館、パラナ州日本移民史料館、グアタパラ農事文化体育協会、山中三郎記念バスター地域史料館、リベイラ・レジストロ日本移民記念館、北原・輪湖記念館、リンス慈善文化体育協会移民史料館、アラサツーパーバ日伯文化協会移民史料室、トメアスー日本人移民史料館、ペレイラ・バレット移住歴史館



概要：1908年4月28日、ブラジルへ向けた第1回日本人集団移住者に乗せた移民船「笠戸丸」は、約2ヶ月間におよぶ航海を経て、6月18日にブラジルのサントス港に入港した。それから100年の時を経て、2008年。サンパウロにあるブラジル日本移民史料館を中心に、ブラジル各地の日系団体から収集した移民の歴史を物語る貴重な写真資料を展示。

公開講座「北米の日本人移民～アメリカ合衆国とカナダを比べて～」

期日：2007年5月19日（土）

場所：JICA 横浜 海外移住資料館 企画展示室

講師：飯野正子（津田塾大学学長、海外移住資料館学術委員長）

概要：「地域と移民～日本における移民研究～」を共通テーマに連続公開講座を開催。第1回のテーマ「北米の日本人移民～アメリカ合衆国とカナダを比べて～」。



公開講座「南米の日本人移民～沖縄県出身移民を中心に～」

期日：2007年6月16日（土）

場所：JICA 横浜 海外移住資料館 企画展示室

講師：石川友紀（琉球大学名誉教授、海外移住資料館学術委員）

概要：連続公開講座第2回。現在、日本人移民の大部分は北米および中南米に在住する。なかでも日本人移民の最大の集団は、2008年に100周年の節目を迎える南米ブラジルで、日系人は約150万人と推定されている。ほかに南米において、日本人移民とその子孫はペルー、アルゼンチン、ボリビア、パラグアイの順に数多く移住し、定住していて、北米在住者より多く、全日系人の60%以上を占めると推定される。その中でも、この南米のパラグアイを除く4カ国において、沖縄県出身移民が圧倒的に多く、日本人移民の代表とみなされる。このような南米の日本人移民について、沖縄県出身移民を中心に、歴史と実態を取り上げる。



イベント「ヨコハマ・ハワイイ・フェスティバル2007」参加

期間：2007年7月27日から7月29日

概要：ヨコハマ・ハワイイ・フェスティバル2007にJICA横浜会場として参加。メイン会場への資料貸出及び、海外移住資料館でのハワイ関連資料展示実施。

イベント「アンケートに答えて海外移住資料館で花火を見よう！」

アンケート実施期間：2007年6月1日（金）から7月16日（月）

概要：館内でのアンケートにご協力いただいた方を対象に、JICA横浜での「神奈川新聞花火大会」観覧（8月1日開催）へ抽選で招待（2名1組100名）。

イベント「ミュージアム・クイズ・ラリーYOKOHAMA 2007」

期間：2007年7月14日（土）から9月2日（日）

場所：JICA 横浜 海外移住資料館

概要：海外移住資料館を含む地域の博物館が連携して夏休みに行なう「ミュージアム・クイズ・ラリーYOKOHAMA」へ参加。神奈川県立歴史博物館の常設展から出題されたクイズを、各館を回って解いていくイベント。小・中学生が対象。

イベント「子どもアドベンチャー2007 かるたで遊んでタイムスリップ！」

期間：2007年8月22日（水）から8月23日（木）

場所：JICA 横浜 海外移住資料館

主催：横浜市、横浜市教育委員会

概要：横浜市が小中学生を対象に開催している「子どもアドベンチャー」へ参加。「移住って何だろう？」「日系人ってどんな人？」「日本人の海外移住が始まったのは100年以上も前。彼らはどんな気持ちで海を渡り、どんな生活をしたのだろうか？」などをテーマに、かるたと紙芝居で遊びながら学ぶプログラムを実施。その場で撮影した写真を絵葉書にして賞品とした。

講演会「青い目の人形の歴史～横須賀での取り組み～」

期日：2007年10月7日（土）、2007年10月14日（日）

場所：JICA 横浜1階 会議室4階 セミナールーム

講師：仲野正美（横須賀青い目の人形会）

概要：特別展示「青い目の人形展」にあわせて開催。青い目の人形は神奈川県下に、横浜市・葉山町・伊勢原市・小田原市・箱根町に9体残っている中、横須賀市においてもその歴史を紹介する取り組みがなされている。横須賀青い目の人形会代表の仲野正美氏による講演。

講演会「反骨の日系ジャーナリスト ジミー・大村」

期日：2007年10月20日（土）

場所：JICA 横浜1階 会議室

講師：森田幸夫（金沢大学非常勤講師）

概要：特別展示「コロラド日系人の100年展 ロッキー山脈のもとで」にあわせて開催。日系ジャーナリスト James Matsumoto Omura（ジミー・大村）の生涯を辿りながら、1930年代から1940年代のコロラド日系社会の状況を解説。

講演会「松平忠厚の妻 カリー」

期日：2007年11月10日（土）

場所：JICA 横浜1階 会議室

講師：飯沼信子（エッセイスト・ノンフィクション作家）

概要：特別展示「コロラド日系人の100年展 ロッキー山脈のもとで」にあわせて開催。コロラド州に最初の足跡を記した日本人として知られる松平忠厚。信州上田藩主の二男であり、留学生、国際結婚、現地就職の先駆けである彼の妻、カリー・サンブソン。彼女の生涯と、忠厚のこども、そして孫たちの活躍を通して、コロラドと日本人の歴史を辿る。

公開講座「移植して菊アメリカに香を誇り～川柳で読むアメリカの日本人移民の暮らし～」

期日：2007年11月17日（土）

場所：JICA 横浜1階 会議室

講師：糸井輝子（白百合女子大学教授，海外移住資料館学術委員）

概要：連続公開講座第3回。「歴史は勝者が書く」と言われる。無名の人びとの声が歴史に残ることは稀であるが、アメリカに渡った日本人移民は現地の日本語新聞に短歌や俳句や川柳を投稿した。一つ一つは短いものであるが、膨大な数から移民たちの生活ぶりや心情が浮かびあがってくる。川柳を題材に在米日本人移民からみた戦前の移民史を読み解く。



2. 情報システム

1) 情報展示システム

(1) デジタル移住スペースコンテンツ拡充

常設展示内デジタル移住スペースコーナーに設置された端末で閲覧可能なコンテンツについて、各国共通の項目として「日本人移住の歴史」追加等、各種コンテンツへ加除修正を行った。

《平成 17 年度》

- ・「ブラジルの日系は今」グラフデータ 12 件追加 (2005 年 6 月)
- ・「ブラジルの日系は今」グラフデータ 28 件追加 (2005 年 9 月)
- ・「移住地域情報図」各国移民の歴史概要 16 件追加 (2005 年 12 月)
- ・「移住地域情報図」コンテンツ 4 件追加 (2005 年 12 月)
- ・「移住画像ファイル」画像及び動画 46 点追加 (2006 年 3 月)

《平成 18 年度》

- ・「移住地域情報図」「展示資料情報」データ修正 (2006 年 12 月)
- ・「移住地域情報図」「展示資料情報」新システムへコンテンツ移行 (2007 年 3 月)
- ・「移住関連組織・団体」「海外移住への一步」データ修正 (2007 年 3 月)

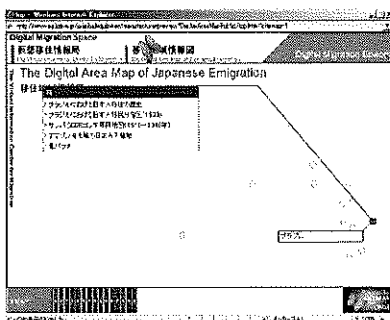
《平成 19 年度》

- ・「移住画像ファイル」システム改修及び動画 6 点追加 (2007 年 6 月)
- ・「移住アルマナック」データ修正 (2007 年 6 月)
- ・「移住地域情報図」データ 5 件追加及び 1 件修正 (2007 年 9 月)
- ・「展示資料情報」データ修正 (2007 年 3 月)

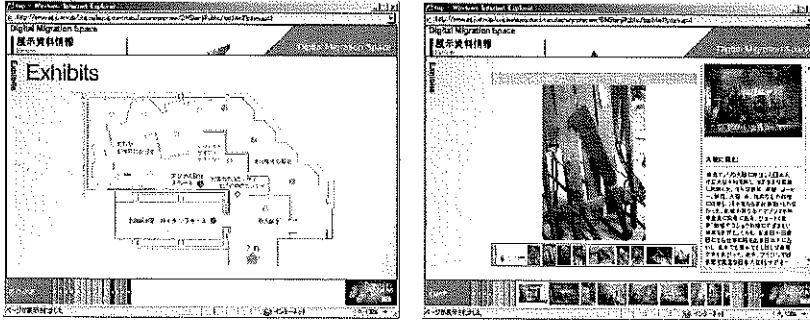
(2) デジタル移住スペースコンテンツ外部公開

同コーナーに設置された 6 台の端末のみで閲覧可能であった情報展示コンテンツについて、インターネット経由で外部から閲覧できるよう、2006 年 7 月外部に公開した。その際、今後の効率的なコンテンツ更新を目的とし、移住資料ネットワーク化プロジェクトとして開発したシステムへ一部コンテンツを移行、再構築した (移住地域情報図, 展示資料情報)

《移住地域情報図》



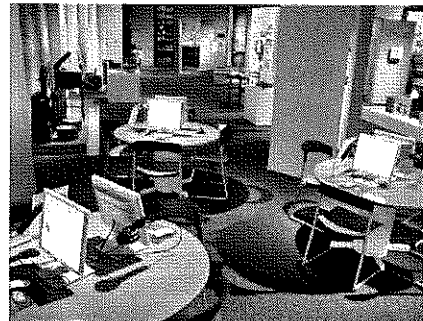
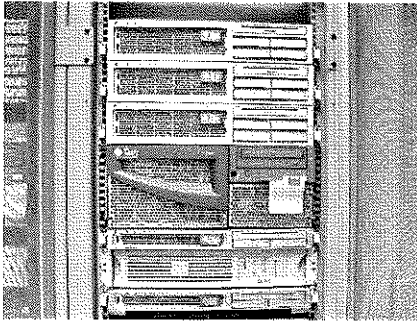
《展示資料情報》



デジタル移住スペースでは、移住先地域の情報や海外移住資料館常設展示の内容など、移住に関する様々なマルチメディア・データを閲覧することが可能となっている。
※デジタル移住スペース URL : <http://dms.eg.jomm.jp>

(3) 情報展示システム機器リプレイス

サーバー機器等老朽化のため、2007年4月情報展示システム機器のリプレイスを行った。導入に際しては消費電力節減及び発熱低下を考慮し、機器を選定した。情報展示用サーバーのほか、デジタル移住スペースコーナーに設置された端末についてもリプレイスを行った。



2) 情報検索システム

(1) 情報検索システム運用

図書資料室（海外移住）で実施される各種レファレンスサービスと連携し、資料館の所蔵する資料について情報を整備し、情報検索システムを通じて館内、館外へ検索サービスを提供した。

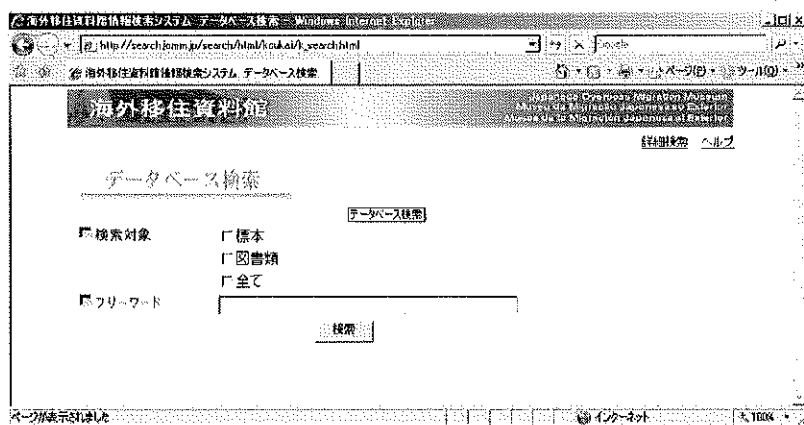
(2) シソーラスプロジェクト

情報検索システムでの検索効率向上を目的とし、海外移住に特化した類義語辞典の充実を図った。2005年9月より、資料館ボランティアとの共同作業として語彙抽出作業を実施した（2005年9月～12月）。そこで抽出された約4,000語の語彙を、地名、人名、団体名、海外移住固有の単語の4つに分類したうえで、キーワードリストを整備した（2006年6月）。キーワードリストから類義語のグループを作成し、随時情報検索システムに投入した。平成19年度末現在の類義語グループ約30,000件（一般的な類義語辞典のグループ含む）。

(3) 情報検索システム機器リプレイス

サーバー機器等のリース契約満了に伴い、2008年3月情報検索システム機器のリプレイス及びそれに伴うシステム修正作業等を行った。導入に際して、情報検索システムインターフェースも更新した。平成19年度末現在のシステム登録件数は、図書類及び標本類について約30,000件。

※海外移住資料館情報検索システム URL : <http://search.jomm.jp>



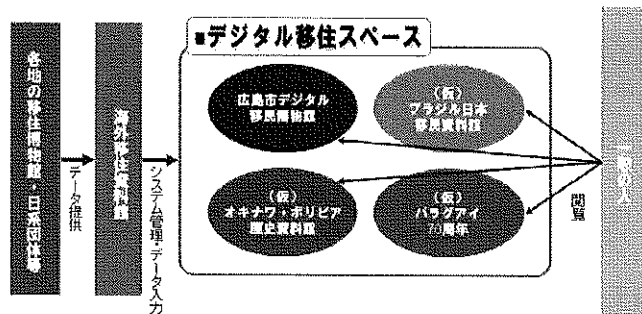
3) 移住資料ネットワーク化プロジェクト

(1) 概要

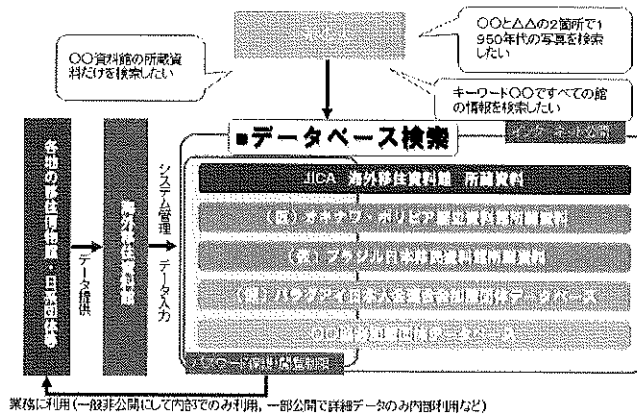
国内外の移住資料館等が所蔵する資料の集約、保全、有効活用を図るため、海外移住資料館のサーバー等設備を活用し、所蔵資料等の情報をインターネット上に公開することを目的とする。海外移住資料館の情報展示システムを活用した、他機関の情報展示 web サイト構築、情報検索システムを活用した、他機関所蔵資料も含めた所蔵資料情報の公開と検索サービスの提供を行う。

※移住資料ネットワーク化プロジェクト URL : <http://www.jomm.jp/oem/index.html>

共同利用のイメージ

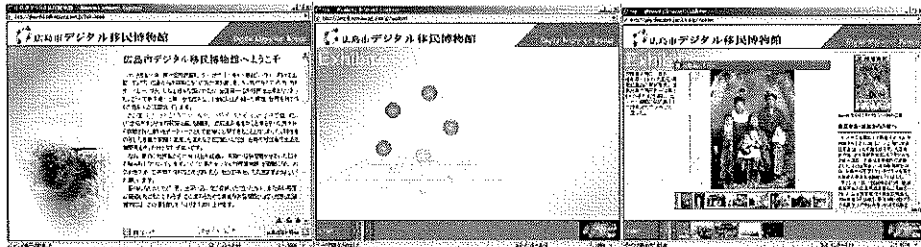


共同利用のイメージ(横断検索)

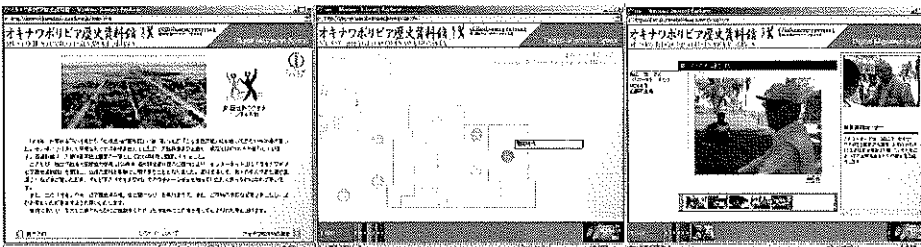


(2) ネットワーク化プロジェクト (情報展示)

情報展示におけるネットワーク化プロジェクトとして、2006年2月に広島市デジタル移民博物館を、2006年10月にオキナワポリビア歴史博物館のwebサイトを構築し公開した。



※広島市デジタル移民博物館 URL : <http://dms-hiroshima.eg.jomm.jp>



※オキナワポリビア歴史博物館 URL : <http://dms-okinawabolivia.eg.jomm.jp>

(3) 研修員受入

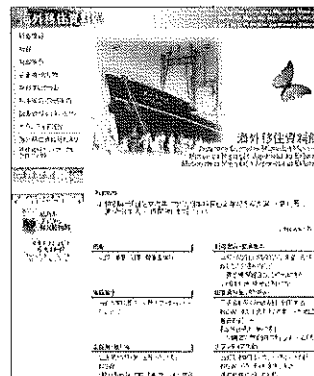
ネットワーク化プロジェクトによる情報システムの活用を中心とした研修を目的とし、2006年10月アルゼンチン、2007年10月ポリビアより日系研修員受入を行った。

4) 海外移住資料館 web サイト他

(1) 海外移住資料館 web サイト運用

2006年4月webサイトをリニューアル公開した。それに伴い展示解説などのボランティア活動の紹介、広報紙「海外移住資料館だより」コーナー等、新規コンテンツを追加した。

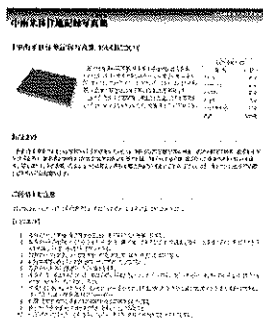
※海外移住資料館 web サイト URL : <http://www.jomm.jp>



(2) 中南米移住地写真集 web サイト構築

移住関連画像への照会対応効率化を目的とし、ネットワーク化プロジェクトにも活用されているシステムを利用した web サイトを構築した (2007 年 6 月)。同サイトにて、画像の閲覧、キャプションのダウンロード、借用及び使用申請の方法、申請フォームのダウンロードが可能。使用した写真及びキャプションはすべて「中南米移住地記録写真集 1964」(海外移住事業団作成) を使用。一般公開はせず、マスコミ等より照会があった場合にのみユーザー名、パスワードを発給し、期間限定で閲覧可能とする仕様。

※中南米移住地記録写真集 1964web サイト URL : <http://1964album.jomm.jp/>



3. 資料の受入

海外移住に関連する図書、標本等各種資料を寄贈、購入、取得等の方法で収集を行った。
平成 19 年度末時点での登録総件数は約 33,751 件。

【平成 17 年度】

受 入 数：1,078 件（うち寄贈 304 件，購入 271 件，取得 503 件）

主な受入資料：「あるボリビア移民の記録」「イビウーナ文化協会創立 50 周年記念誌 イビウーナ日系人発展史」「オーストラリアの日本人 一世紀をこえる日本人の足跡」「グアタパラ新聞」「ブラジル激動の日本人移民史 拓魂 100 年」「ブラジル日本移民 80 年史」「ブラジル富山県人会だより」「マリリア日本語モデル校 10 周年記念誌」「ラーモス移住地 40 年の歩み」「海外協会三十年沿革史」「尋常小学修身書 巻 5 児童用」「尋常小学地理書 巻一」「尋常小学地理書附図」「尋常小学理科書 第五学年児童用」「西部アマゾン日伯便り」「第一回パラナ州日本語作文コンクール作品集 日本ってどんな国」「日系移民・海外移住異文化交流の今昔」

その他寄贈：ラテン・アメリカ協会所蔵図書資料（約 5,000 件）

【平成 18 年度】

受 入 数：1,119 件（うち寄贈 503 件，購入 226 件，取得 390 件）

主な受入資料：「(移民)保証書」「全伯日本語学校要覧」「ABJ 通信」「CAICO NEWS」「サンファン日本人移住地 入植 50 周年記念記録映像」「Nikkei ARGENTINO」「NIKKEI COLOMBIA」「ありあんさ通信」「アルゼンチン香川県人会 創立三十五周年記念誌」「アルゼンチン日本人移民史」「オキナワ第一タウンマップ」「コロラド日本人物語 日系アメリカ人と戦争 60 年後の真実」「サンファン日本人移住地 移住地概況 2005 年」「パラナ州日本人移民史 パラナ州日本移民百年への道程」「ブラジル新潟県人会だより」「ブラジル特報」「ボリビアの大地に生きる沖縄移民」「レシフェ会報」「浦添市史」「沖縄県史」「記念切手セット パラグアイ日本人移住 70 周年記念」「糸満市史」「勝連村誌」「中城村史」「東村史」「読谷村史」「那覇女性史」「南伯日本語学校沿革史」「南風原町史」「日本アルゼンチン交流史 はるかな友と 100 年」

【平成 19 年度】

受 入 数：778 件（うち寄贈 256 件，購入 167 件，取得 355 件）

主な受入資料：「インターマウンテン同胞發達史」「タウンページ便利職業電話帳 Vol. 12 2007」「トロント新移住者協会 創立 20 周年記念誌」「ブラジルの兵庫県人」「ブラジル移住少年の日記」「移民保護法改正方二關スル件 試案」「海外からの寄稿文集 1 ブラジル・ボリビア」「海外日本実業者の調査」「海流 最後の移民船 ぶらじる丸の航跡」「在伯鳥取県人発展史」「在伯日系農民のブラジル農業に対する寄与 移民史参考資料」「クリスタルシティ自治会時報」「女たちのブラジル移住史」「大正町史」「日本ブラジル移民百周年記念創作かるた」

4. 教育普及活動

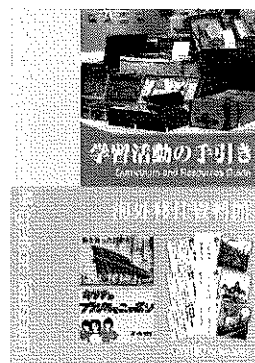
1) 教育プログラムの概要

当館は、日系移民に関する資料の収集、保存、展示、研究のほか、設立趣旨にあるように移住者たちの足跡や役割について多くの人々に伝え、理解を深めてもらいたいと考えている。また、とくに若い世代の人々に多文化共生社会を生きる一員として、あるいは開発教育の視点からも、一人ひとりが移住者からのメッセージを受け止めてもらいたいとの思いから、開館当初より、市民や子どもたちへの教育・普及活動に積極的に取り組んできている。

現在、日本においても外国から多くの人々が移り住み、多文化社会が進展してきており、「多文化共生」が教育分野においても重要な課題となってきた。そこでそのような課題に応え、教育関係者の役に立ていただくこと、当館を活用した各種学習プログラムを開発している。内容は、「学習活動の手引き」、カルタや紙芝居、定点解説キットといった教材、ワークシート、館内ガイドを担うボランティアプログラムからなる。

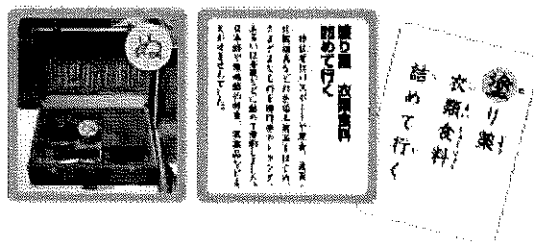
【学習活動の手引き】

この手引きには、移民について学ぶことの意義が記され、その意義に沿った、海外移住資料館の展示および各種教材を活用したいくつかの授業構想が含まれている。学校の先生方はもとより、NGO/NPO 関係の方々への授業づくりやワークショップの際の参考として利用できる。



【移民カルタ】

日本人の海外移住の歴史、移住者の生活や心情、日本に住む日系人の生活や思いなど、子どもたちに知って欲しい移民に関するさまざまな事柄を、遊びを通して楽しみながら学ぶことができる。



【紙芝居】

絵や写真、そしてわかりやすい言葉で書かれた物語を通じ、移住者の歴史的経験や心情、日本に暮らす日系人の生活や思いを共感的に理解することができる。4種類。

①ハワイにわたった日系移民



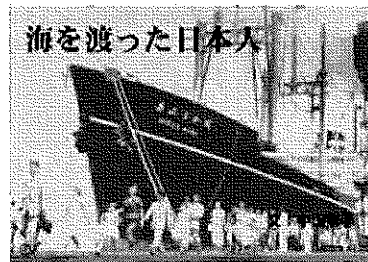
②カリナのブラジルとニッポン



③弁当からミックスプレートへ



④海を渡った日本人



【定点解説キット】

日本からの移住者が運んだトランクを再現したもの、当時の移住先国での暮らしを紹介するものなど、11のキットがある。直接体験を通して展示をより実感して理解することが可能となる。

- ① サトウキビ畑の生活・仕事（麦わら帽子、手ぬぐい地の帽子、軍手、写真パネル等）
- ② ミックスプレート（写真パネル）
- ③ スーツケース（写真カード入りの小箱、トランク等）
- ④ 移住物語（写真アルバム、複製のパスポート）
- ⑤ 花と製品あてゲーム（圧縮した綿、4つの缶からなる「香りの箱」等）
- ⑥ 農作業具（写真パネル）
- ⑦ 日系商店・萬屋（萬屋の品揃えアルバム、エプロン等）
- ⑧ 日系人の食卓（写真アルバム）
- ⑨ イグアス（空撮写真、アルバム等）
- ⑩ 宝さがし（中高生向き写真カード、ゾーンマップ）

【ワークシート】

当館を利用して、学習指導をされる先生方の授業活動の参考のために作成したもの。展示

場において、海外移住の歴史や移住者・日系人の生活について展示ガイドの解説を受けながら、海外移住に関するトピックについて自ら考え、記入する記述式のもの、または展示解説を受けながら各質問に答えるクイズ式のものがある。

2) 教育プログラムの実施

教育普及活動として、概要説明、かるた・紙芝居・定点解説キット・ワークシートを使用したプログラム等、移住資料館の各種学習プログラムを活用し実施した。主な実施団体は以下。



都立杉並総合高校、中央大学、目白大学、JICA 横浜高校生国際協力実体験プログラム、川崎市立橋高校、神奈川県立港南台高校、湘南国際村多文化共生ワークショップ、杉並国際高校、三浦臨海高校、潮田中学校、矢口中学校、クラーク記念国際高等学校、都立久留米養護学校、横浜隼人高校、横浜市立笹下中学校、明治学院大学、慶応義塾大学、横浜市立境木小学校、神奈川県立久里浜高等学校、横浜市立上寺尾小学校、ガールスカウト東京21団、神奈川県立釜利谷高等学校、神奈川県立久里浜高等学校、横須賀市立野比小学校、神奈川県立住吉高等学校、神奈川県立相原高等学校、神奈川県立住吉高等学校、相模原市立大野南中学校、藤沢市立長後中学校、横浜市立原中学校、東京都立小山台高校、東京工業大学、津田塾大学、公文国際学園中学校、新潟県大潟村立大潟中学校、東京学芸大学、長崎県聖和女子学園高等学校、練馬区中学校教育研究会、日の出学園高等学校、東京学芸大学、国土館中学校、日伯学園他



【プログラム例① 高校生向け（150分）】

- (1) グループ作業（4グループ各6名）40分
移住・移民についてのイメージ共有
グループごとに取りまとめ、各代表が発表
- (2) 移民カルタで展示を理解40分
グループ単位で実施
- (3) 定点解説キットを活用した展示の補足案内30分
- (4) 移住・移民に関するイメージの変化をグループごとに確認、各代表発表40分

【プログラム例②「公民科教育研究」の授業を取っている大学生向け（3時間）】

- (1) 教材体験（アイスブレイキングと課題確認）
カルタ：札を取った人は裏書きを読む。日本人移民の歴史や、経験についてリラックスしながら、概要をつかむ。
紙芝居：現在日本に暮らす日系人をはじめとする、外国つながりの人々が抱える問題について考える。

(2) ディスカッション

『学習活動の手引き』の年表 (P. 38, 39)、『移民を授業する』の「日系アメリカ人の歩みをたどる」(P. 3~P. 10)を使って、日本人移民の歴史や、日系アメリカ人のことについての話をする。

(3) 資料館見学

展示場内の以下のポイントをおさえつつ、解説つきで館内見学をする。

- ・ さとうきびプランテーションのバンゴー
- ・ 日系アメリカ人の強制収容
- ・ 日系人部隊
- ・ リドレス
- ・ 日本語学校の廃止 (ブラジル)
- ・ 邦字新聞の廃刊 (ブラジル)
- ・ 敵性国資産の凍結令 (ブラジル)

(4) リアクションペーパー記入

移民が他者化された (される) 経験は、過去の、そして遠い外国でだけの出来事なのか考える。公民の授業づくりに生かせる、移民に関わるトピックについて考える。

3) 「学習活動の手引き」改訂

海外移住資料館の常設展示、情報展示等を活用した参考教案集として作成された「学習活動の手引き」を改定した (平成 19 年 3 月)。今回の改定では、当資料館での見学を想定した教案追加以外に、見学できない場合でも学習活動に活用できる教案も追録した。



4) ボランティア管理運営

常設展示内での展示案内を中心とした役割を目的とし、ボランティア新規募集を実施し、新たに 11 名のボランティアが委嘱された (平成 17 年 4 月、うち 8 名は元 JICA 職員で移住事業業務経験者)。平成 19 年度末時点での登録総数は 15 名 (うち 13 名は移住事業業務経験者)。また、ボランティアのスキルアップを目的とした研修及び連各会議等を実施した。

【平成 17 年度】

ボランティア研修会（平成 17 年 6 月 13 日～6 月 14 日）

内容：「対話による博物館ボランティア」（講師：宇都宮大学生涯学習教育研究センター廣瀬隆人教授）、「海外移住資料館教育プログラム『学習活動の手引き』活用法」（講師：筑波大学附属高等学校田尻信壹教諭）

ボランティア連絡会議（平成 17 年 8 月 22 日）

内容：2 年間のボランティア活動を振り返る，意見交換会

ボランティア連絡会議（平成 17 年 10 月 3 日）

内容：カルタ及び紙芝居を使用した解説訓練，意見交換会

【平成 18 年度】

ボランティア研修会（平成 18 年 9 月 20 日）

内容：「博物館におけるボランティア活動」（講師：国立科学博物館広報・サービス課課長石川昇氏）

【平成 19 年度】

ボランティア連絡会議（平成 19 年 12 月 7 日）

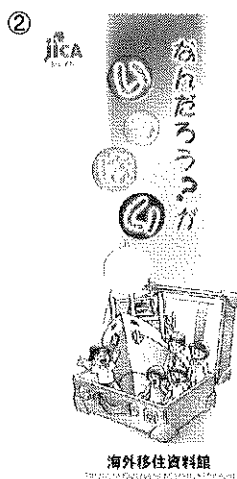
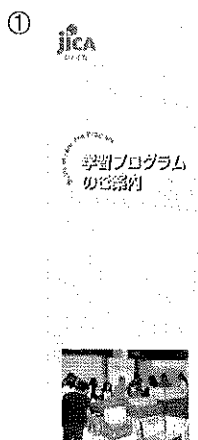
内容：「中南米移住地写真集画像データの運用」「学習支援キット運用状況」「図書資料室のりようについて」「火災等緊急時の対応について」，避難訓練，意見交換会



5) 教育普及活動用発行物の製作

海外移住資料館の教育普及用素材として、以下のリーフレット等を製作し来館者等に配布した。

- ① 学習プログラムのご案内
- ② なんだろう？がいっぱい
- ③ 学習の手引き（改訂版）



5. 広報活動

1) 広報紙「海外移住資料館だより」発行

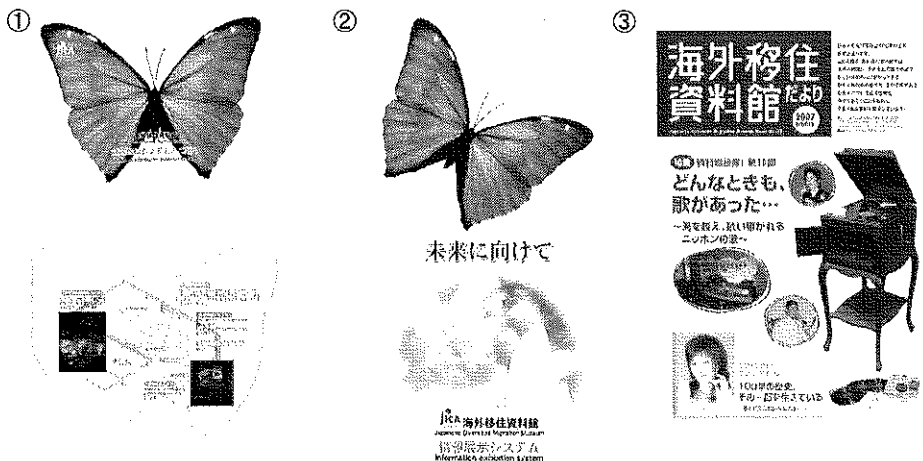
海外移住資料館広報紙として、2005年9月「海外移住資料館だより」を創刊した。以降、年4回発行。巻頭インタビューでは海外移住に関わりの深い著名人をとりあげ、資料館探検隊のコーナーでは毎回テーマを設定し、海外移住資料館の展示及び所蔵資料等を紹介。常設展示来館者及び関係機関（JICAの機関・施設、教育委員会、国際教育研究協議会加盟校、関連資料館・博物館、神奈川県立各高校、関連国大使館、都道府県国際課、都道府県国際交流課など）へ配布した。発行部数：各号10,000部。

No.	発行	巻頭インタビュー	資料館探検隊
1	2005年 9月	KONISHIKI	アロハシャツと日本移民の歴史
特集	11月	特別展示特集号 NHK放送80周年記念ドラマ『ハルとナツ 届かなかった手紙』展	
2	12月	ケイン・コスギ	南米移住者の食卓
3	2006年 3月	いっこく堂	武道と日系人
4	7月	嵐山光三郎	世界で詠まれる短歌・俳句
5	9月	北澤豪	パラグアイ農業に日系人の姿あり！
6	12月	宮沢和史	南米のオキナワ村
7	2007年 3月	別所哲也	移住地にシネマがやってくる！
8	7月	サンディー	遠くて近い、あこがれのハワイ
9	9月	渡辺貞夫	コーヒーと移住者の深～い関係
10	12月	マルシア	どんなときも、歌があった…
11	2008年 3月	小野リサ	夢と希望を運んだ船

2) 広報活動用発行物の製作

海外移住資料館の広報用素材として、以下のリーフレット等を製作し来館者等に配布した。

- ①情報展示システム解説リーフレット
- ②情報展示機器利用法リーフレット
- ③海外移住資料館だより



3) 開催広報

展示イベント等について、広報素材作成と頒布、表示類の作成、プレスリリースの配信等、開催広報を行った（NHK 横浜局、TBS ラジオ、TVK、神奈川新聞、県政記者クラブ、横浜市政記者室、朝日新聞マリオン編集部、各種イベント広報 web サイト等 21 媒体）。

6. 運営委員会及び学術委員会

1) 運営委員会

海外移住資料館の運営方針、事業計画、学術事項等運営に関する重要事項について、専門的な見地から議論、検討することを目的とし、各年度に運営委員会を開催した。また平成18年度より新たな規程を策定し、委員会再編を行った。

【運営委員会開催】

平成17年度運営委員会（12月9日）

平成18年度運営委員会（7月23日）

平成19年度運営委員会（8月29日）

【運営委員】

平成17年度運営委員

運営委員長	沢地真	JICA 横浜所長
委員	中牧弘允	国立民族学博物館教授
	杉下恒夫	茨城大学教授
	山本匡	国立民族学博物館助手
	伊藤隆文	JICA 総務部総務グループ長
	粕谷亮	JICA 総務部情報政策グループ長
	武下佛治	JICA 国内事業部管理グループ長
	岡田実	JICA 中南米部移住チーム長

平成18年度運営委員

運営委員長	沢地真	JICA 横浜所長
学術委員長	飯野正子	津田塾大学学長
委員	中牧弘允	国立民族学博物館教授
	杉下恒夫	茨城大学教授
	山本匡	国立民族学博物館助手
	桑井輝子	白百合女子大学教授
	粗信仁	JICA 総務部部长
	山口三郎	JICA 中南米部部长
	加藤宏	JICA 国内事業部部长

平成19年度運営委員

運営委員長	高井正夫	JICA 横浜所長
学術委員長	飯野正子	津田塾大学学長
委員	中牧弘允	国立民族学博物館教授
	杉下恒夫	茨城大学教授
	山本匡	国立民族学博物館助手
	桑井輝子	白百合女子大学教授
	佐渡島志郎	JICA 総務部部长
	蔵本文吉	JICA 中南米部部长
	村上正博	JICA 国内事業部部长

2) 学術委員会

海外移住資料館における学術研究に係る企画・実施協議・評価・交流を行うことを目的として、平成 18 年度に海外移住資料館学術委員会を設置した。同委員会は、JICA 横浜所長、JICA 横浜業務第二チーム長及び学識経験者により構成される。

【学術委員会開催】

(平成 18 年度)

- 第 1 回学術委員会 (7 月 13 日)
- 第 2 回学術委員会 (8 月 23 日)
- 第 3 回学術委員会 (9 月 21 日)
- 第 4 回学術委員会 (10 月 20 日)
- 第 5 回学術委員会 (3 月 28 日)

(平成 19 年度)

- 第 1 回学術委員会 (5 月 24 日)
- 第 2 回学術委員会 (10 月 6 日)
- 第 3 回学術委員会 (12 月 3 日)
- 第 4 回学術委員会 (3 月 1 日)

【学術委員 (JICA 横浜)】

- 沢地真 (JICA 横浜所長, 平成 18 年度第 1 回～第 5 回)
- 高井正夫 (JICA 横浜所長, 平成 19 年度第 1 回～第 4 回)
- 藤井敬太郎 (JICA 横浜業務第二チーム長, 平成 18 年度第 1 回～平成 19 年度第 1 回)
- 佐藤洋史 (JICA 横浜業務第二チーム長, 平成 19 年度第 2 回～第 4 回)

【学術委員 (学識経験者)】

- 飯野正子 (学術委員長, 津田塾大学学長, 海外移住資料館運営委員)
- 石川友紀 (琉球大学名誉教授)
- 桑井輝子 (白百合女子大学教授, 海外移住資料館運営委員)
- 島田法子 (日本女子大学教授)
- 中牧弘允 (国立民族学博物館教授, 海外移住資料館運営委員)
- 森茂岳雄 (中央大学教授)
- 柳田利夫 (慶応義塾大学教授)
- 山本匡 (国立民族学博物館助手, 海外移住資料館運営委員)

3) 学術研究プロジェクト

学術委員会において企画、検討された学術研究プロジェクトを実施した。研究期間は 3 年間 (平成 20 年度まで) とし、平成 18 年度より以下の 4 プロジェクトを開始した。

① JICA アーカイブズ・プロジェクト (移民史料研究会・JICA 所蔵資料研究会)

<移民史料研究会> 国・地方の図書館・文書館・資(史)料館等に所蔵されている移民資料を対象とし、資料所蔵状況を把握したうえで、その活用について検討する。

<JICA 所蔵資料研究会> JICA (海協連・移住事業団・琉球政府等) を通じて実施されてきた戦後海外移住に関わる海外移住資料館所蔵の基礎資料を蒐集、整理、保管し、公開す

7. 各種実績

※詳細は次頁参照

1) 常設展示スペース入館者数

平成 17 年度： 25,389 人

平成 18 年度： 30,039 人

平成 19 年度： 30,033 人

※開館（平成 14 年 10 月）からの累計（平成 19 年度末時点）：130,874 人

2) 図書資料室（海外移住）入室者数

平成 17 年度： 926 人

平成 18 年度： 1,218 人

平成 19 年度： 1,909 人

3) web サイトアクセス実績（visit 数）

平成 17 年度： 56,652

平成 18 年度： 91,303

平成 19 年度： 113,182

るためのアーカイブとしての機能を充実させること目的とする。

②研究調査プロジェクト「二つの国の絆を結んで：『移民』の日本への貢献を探る」

第二次大戦後の日本復興時に焦点を絞り、国際協力という視点から移民した人々の「母国」への貢献に関して調査し、考察する。

③研究調査プロジェクト「海を渡った花嫁たち — 日本人女性移民の研究」

ジェンダーをキーワードにして、日本人移民のコミュニティー形成、エスニック文化形成等を再考察し、さらに北米、ハワイ、南米へ渡った日本人女性移民を取り上げ、その類似性や差異性に着目し、その意義について考察する。

④海外移住資料館を活用した学習支援プログラムと教材の開発

日系移民学習のための教材（移民カルタ・紙芝居）及び「学習の手引き」の開発（平成16年度）に続き、トランクキット型のアウトリーチ教材の開発を目的とする。

4) 研究紀要第2号発行

海外移住資料館で行われる各種学術研究の成果として、研究紀要第2号を発行した（2008年1月発行）。

【発行によせて】

津田塾大学学長・海外移住資料館学術委員会委員長 飯野正子

【論文】

海外移住資料の保存・整理の基礎 — 記録管理原則の適用可能性 —
独立行政法人国立公文書館理事 高山正也

「慰問品うれしく受けて」— 戦時交換船救恤品からララ物資へつなぐ感謝の連鎖 —
白百合女子大学文学部教授 桑井輝子

MISとして占領下の日本に駐在した二世の体験談を聞く

東海大学非常勤講師 長谷川寿美
武蔵野美術大学専任講師 小澤智子

「救済された敵国の女性達」— 沈黙が語る結婚の記憶 —

カリフォルニア大学サンディエゴ校エスニックスタディーズ学科博士課程 土屋智子

山本喜譽司の「ブラジル人観」 — 「農場で見ター九三三年護憲運動記」を通じて —
慶應義塾大学文学部教授 柳田利夫

常設展示スペース		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
平成17年度	入館者数	1,837	3,257	1,946	2,172	2,087	2,367	2,585	2,840	1,631	1,188	1,678	2,000	25,389
	(前年同比)	88%	136%	104%	203%	163%	140%	124%	153%	162%	108%	141%	119%	133%
	一般	1,473	2,471	1,216	1,734	1,749	1,901	1,943	1,980	1,449	1,119	1,455	1,816	20,308
	学校関係	164	786	730	438	338	466	642	860	182	69	224	184	5,083
	15歳未満	80	765	504	288	201	458	378	501	106	119	193	272	3,955
	15歳以上	1,557	2,492	1,352	1,884	1,886	1,909	2,207	2,339	1,525	1,069	1,486	1,728	21,434
	個人	1,181	2,328	961	1,370	1,504	1,351	1,557	1,725	1,283	1,033	1,320	1,555	17,148
	団体	476	929	986	802	583	1,016	1,028	1,115	348	155	359	445	8,241
平成18年度	入館者数	2,401	4,291	2,427	2,370	2,571	2,334	3,726	2,545	1,480	1,496	1,989	2,409	30,039
	(前年同比)	147%	132%	125%	109%	123%	99%	144%	90%	91%	126%	118%	120%	118%
	一般	1,974	3,666	1,873	1,935	2,170	2,222	3,103	1,776	1,240	1,302	1,758	2,261	24,681
	学校関係	427	1,225	554	435	401	112	623	769	240	194	230	148	5,358
	15歳未満	293	723	528	185	300	119	271	508	157	194	243	187	3,886
	15歳以上	2,108	3,668	1,899	2,205	2,271	2,215	3,455	2,038	1,323	1,302	1,746	2,222	26,353
	個人	1,797	2,782	1,552	1,687	1,917	1,947	2,769	1,510	1,164	1,185	1,695	2,105	22,110
	団体	604	1,509	875	683	654	387	857	1,035	316	311	294	304	7,929
平成19年度	入館者数	2,798	4,080	2,733	2,401	2,313	2,170	3,194	2,553	1,798	1,484	1,689	2,820	30,033
	(前年同比)	117%	95%	113%	101%	90%	93%	86%	100%	121%	99%	85%	117%	100%
	一般	2,258	2,166	2,050	1,900	1,808	1,708	2,474	1,744	1,564	1,295	1,431	2,638	23,038
	学校関係	540	1,914	683	501	505	462	720	809	234	189	258	182	6,997
	15歳未満	529	790	525	359	255	301	438	507	164	149	294	202	4,513
	15歳以上	2,289	3,290	2,208	2,042	2,058	1,869	2,756	2,046	1,634	1,335	1,395	2,618	25,520
	個人	1,688	2,020	1,976	1,569	1,650	1,480	1,805	1,566	1,403	1,140	1,358	2,244	19,879
	団体	1,130	2,080	757	832	663	690	1,389	987	395	344	331	576	10,154

図書資料室(海外移住)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
平成17年度	入室者数	83	81	60	67	75	72	70	93	68	81	50	126	926
	(前年同比)	108%	107%	173%	127%	131%	151%	134%	120%	122%	98%	174%	151%	132%
平成18年度	入室者数	90	87	104	85	98	109	84	112	83	79	87	190	1,218
	(前年同比)	108%	107%	173%	127%	131%	151%	134%	120%	122%	98%	174%	151%	132%
平成19年度	入室者数	81	122	122	145	161	137	162	165	193	208	181	232	1,909
	(前年同比)	90%	140%	117%	171%	164%	126%	172%	147%	233%	263%	208%	122%	167%

webページアクセス		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
平成17年度	Visits(訪問者数)	2,715	3,012	3,095	4,207	4,303	4,010	5,890	5,859	5,776	5,797	5,594	6,404	56,652
	Pages(利用数)	6,040	7,666	7,515	9,132	9,380	7,865	13,146	12,296	11,023	11,556	11,626	12,120	119,365
	Files(情報提供数)	36,402	42,782	37,075	44,766	48,255	39,859	68,712	64,213	54,711	63,392	60,249	61,580	621,996
	Pages/Visits	2.22	2.55	2.44	2.17	2.18	1.96	2.23	2.10	1.91	1.99	2.08	1.89	2.11
平成18年度	Visits(訪問者数)	6,140	6,657	6,301	6,867	7,764	8,112	9,127	7,357	7,753	8,644	8,105	8,476	91,303
	(前年同比)	226%	221%	204%	163%	180%	202%	155%	128%	134%	149%	145%	132%	161%
	Pages(利用数)	14,949	16,612	15,336	16,309	18,062	18,563	21,954	15,513	14,861	19,908	15,994	16,498	204,559
	Files(情報提供数)	154,940	199,995	172,440	179,282	199,850	224,020	228,542	169,449	159,137	207,569	184,256	192,192	2,271,672
平成19年度	Visits(訪問者数)	9,053	9,890	10,346	11,152	9,591	8,206	9,661	9,302	7,896	8,703	9,130	10,252	113,182
	(前年同比)	147%	149%	164%	162%	124%	101%	108%	128%	102%	101%	113%	121%	124%
	Pages(利用数)	17,570	19,864	19,526	20,077	18,077	15,271	19,397	18,152	16,103	18,399	19,467	21,626	223,529
	Files(情報提供数)	205,489	232,116	226,523	235,895	211,055	176,939	226,386	204,708	180,672	89,827	80,567	83,848	2,148,125
平成19年度	Pages/Visits	1.94	2.01	1.89	1.80	1.88	1.86	2.01	1.95	2.04	2.11	2.13	2.11	2.11

JICA 横浜 海外移住資料館 館報
平成 17～19 年度

発 行：国際協力機構横浜国際センター
Japanese Overseas Migration Museum
海外移住資料館

発行年月：2009 年 2 月

問い合わせ先

JICA 横浜 海外移住資料館
〒231-0001 神奈川県横浜市中区新港 2-3-1
Tel 045-663-3257 / Fax 045-211-1781
Web: <http://www.jomm.jp> E-mail: info@jomm.jp

